

『自動車整備士 1級小型筆記 問題と解説 令和6年版 下巻』 に関するお詫びと訂正のご案内

『自動車整備士 1級小型筆記 問題と解説 令和6年版 下巻』の内容について誤りがありましたことを、心よりお詫び申し上げます。以下の通り訂正致しますので、お手持ちの本書に加筆訂正をお願いいたします。

ご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。よろしくお願い申し上げます。

第5章 エンジン P238 ! ポイント解説【1】	誤	【1】正解…3 1. 騒音計の補正特性は、騒音の音圧レベルを振動周波数ごとに補正して表したもので、A特性、C特性、F特性の3つが備わっている。A特性は、人の聴覚に最も近い補正を行うもので、低周波数域で音圧レベルを大きくマイナス補正する。また、C特性はほとんどマイナス補正を行わない。 中速時(70km/h位)に耳を圧迫するようなこもり音が発生した場合、騒音計の補正特性は、低周波数に対して感度がよいC特性を選択する。
	正	【1】正解…3 1. 騒音計の補正特性は、騒音の音圧レベルを振動周波数ごとに補正して表したもので、A特性、C特性、F特性の3つが備わっている。A特性は、人の聴覚に最も近い補正を行うもので、低周波数域で音圧レベルを大きくマイナス補正する。また、C特性はほとんどマイナス補正を行わない。 中速時(70km/h位)に耳を圧迫するようなこもり音が発生した場合、騒音計の補正特性については、低周波数に対して感度がよいのはC特性であるが、測定時はA特性を選択する。